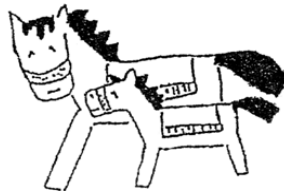


♪
お馬のかあさん
やさしいかあさん
子馬をみながら
ぽっくりぽっくり
あるく

おうまのおやこ

子育ても
あせらず待ちましょ
ポックリ、ポックリと

27年 11月 NO. 252



〒 760-0044 香川県高松市御坊町2-2
高松保育園内地域子育て支援センター
TEL:087-821-9347 FAX:087-851-0857
<http://oumanooyako.sakura.ne.jp/>

(厚生労働省・高松市委託事業)

～どなたでも～

11月の主な活動

～お気軽にどうぞ～

11月 7日	土	体験保育 10:00～12:00	お子さまと同じ年齢のクラスに 入って保育所体験をどうぞ。
11月 14日	土	香川みすゞさんの会 12:00～16:00	イサムノグチ庭園美術館へ行きます。 予約要。11/10までに821-5241堀まで。
11月 27日	金	おはなしの会 10:00～11:30	「秋をさがそう」をテーマにおいもの 絵本や大型紙芝居もあります。
11月 27日	金	健康・育児相談 11:00～12:00	園医師（小児科）にゆっくり 相談できます。（予約要）
11月 28日	土	体験保育 10:00～12:00	出産予定の方も子育て体験に おいで下さい
11月 28日	土	手品教室 14:00～16:00	子育てに役立つカードを使った マジックをします。小学生もどうぞ。

・火～金の13時～16時までは、園内開放しています
ので、親子でご来園下さい。
(但し、月・日曜・祭日は休み)

育児相談（月～土）9:00～18:00

しつけや子育てについての悩み、保育園生活
入園・見学についての相談もどうぞ。

香川県高松市御坊町2-2
高松保育園 地域子育て支援センター



金子みすゞ童謡全集⑥

あれはお汽車の灯のかけよ、
さみしい赤よ、亡ない赤よ。

お空であかいは
あれはなに。

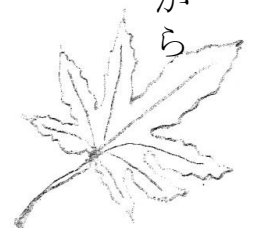
あれは熟れる柿の実よ、
見てもうまそな、黄ない赤。

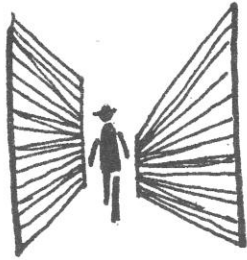
お里であかいは
あれはなに。

あれははじはじもみじ
なにか怖いなな、黒い赤。

お山であかいは
あれはなに。

汽車の窓から





子どもを救った親のひと言

子ども家庭教育フォーラム代表

富田 富士也

出典は定かではありませんが、私の相談活動を支えてくれる“杖ことば”を思い出しました。「一つの言葉でけんかして、一つの言葉で仲直り、一つの言葉はそれぞれに、一つの言葉は生きている。」励ますつもりで言った言葉が相手に対して傷つける言葉になったりします。ところがその傷つけた同じ言葉が場面を変えて、同じ人の心を思いやっていたわりの言葉として受けとめられたりします。

つまり言葉は関係の中で生きてるということです。だから対面し肉声で関わり対話していく中での言葉は、カレンダーに紹介されているような“鑑賞”用的な言葉と違って、「良い言葉・悪い言葉」と定型的に分けられないのです。関係が言葉を決めるのです。

たとえば、「ありのままのあなたでいい」と言われ、その言葉に肯定感を持って落ち着けるときもあれば、気持ちの変化に突き放された否定的感情を抱える時もあるということです。同じ「一言」も「人言」によって代わるのです。

だから関係から声をかけて分かり合えた「ひと言」にうぬぼれてもいけないし、失敗したと失望することもないのです。関わり続ければ、けんかしても必ず仲直りの「ひと言」がめぐってくるのです。ところがそんな人間関係をわずらわしい、めんどくさいと絶つような育ちの中にいると、「けんか=決裂」「自分の意見を譲ったら敗北」と思ってしまいがちです。すると「一つの言葉でけんかして、一つの言葉で仲直り」とはイメージできずに当たり障りのない関わり、言葉で、いわゆる「いい子」「いい人」になっているのです。

しかし、親子関係は言いつ放し、やりつ放しで関係を絶つというわけにはいきません。互いに関係から他人事にして逃げられないのです。わが子の悲しみが親の悲しみになり、親の笑顔が子どもの笑顔になります。循環的なつながりの中に対の関係として親子は影響し合っているのです。その意味で「親子のひと言が親子を変える」のです。

ただ子育て中の親子関係の相談に当たっていると、子は親に対して経済的、精神的、社会的に弱い立場にあり、ときには無力な存在であると思われるときがあります。それだけにジャッジすることなく、子を愛おしく思う親を信じて子が親に懐^{なつ}いていく姿がけなげです。そしてその「けなげ」な思いが報われなかったときに子は親に抵抗し、さらに「ささいな」親のひと言が親子の危機を招いたりするのです。しかし、その親子の対立がきっかけとなって互いの人格形成に希望となる“杖ことば”としての「ひと言」を刻むことがあるのです。

中1から不登校を続け、卒業した今も外出することはなく、引きこもり生活が続ける次男（16歳）の今後について、小学校教員の父親が相談に訪れました。

「クラスの子どもの心は手に取るようにわかるがわが子の心がつかめない」と呻^{しんぎん}吟する父親は、先の見えない不安に、妻任せにして授業研究に逃げてきた“パソコン漬け”のこれまでを振り返って言いました。半年前に次男の部屋に唐突に入ると「死ぬ覚悟でやれば人は恐くない」と外出を促し励ましたのです。すると次男は冷ややかに「急に父親をするな」と言ってドアを閉めたのです。まもなくしてドアに貼られていた「俺に話しかけるな 殺すぞ！」のメモ書きが、「俺に話しかけるな、俺は死ぬぞ！」に変わったのです。それから父親は次男の部屋には近づくこともできないでいたのです。たじろぐ心境を語ります。

『殺すぞ！』なら私は被害者です。でも『死ぬぞ！』だと私が加害者になります」

面接では、父親の子煩悩ぶりを肯定しつつ、次男の心細さから起きるひょうきんさを明るさと思い「ふざけるな」と、不登校になるまで叱咤してきたこれまでを思い返すことになりました。

「私たちにちょっかいを出してきたのは不安でかまってほしかったのですね。よく気をつかう子でしたが私は中学生にもなるんだから当たり前だと『ありがとう』のひと言も言ってきませんでした。次男は報われたいですね。けなげな子です」

目の前の現実が変わらなくてもわが子をその中で「けなげ」と思えば、関わる勇気が出てきます。



数か月後。父親が「息子を死なせることになるかもしれない怖さ」をもって彼の部屋の前に立ち愛おしく思う心境をつぶやき入室したそうです。そして背を向けパソコンに向かう次男に戸惑いつつ声をかけたのです。

「お父さんのこと、信用できないか」



と。すると次男が半年ぶりに返事をしたのです。

「信用するもしないもまだそれほど付き合っていないじゃないか。お父さんも死ぬ覚悟でドアの前に立っていたんだね」

すると父親は舌をかみつつ言ったそうです。

「父親になるには時間がかかると思うが、がんばるから付き合ってくれよ」
次男も父親のひと言にひょうきんに答えたのです。「俺も時間がかかる人間だ」

父親の素直な弱音が“荒ぶる子”の心を救ったのです。次男の微笑みが父親の笑顔になりました。

向きあうから傷つき、向き合うから癒され、向き合うから分かり合えるのです。だから親子は分かり合うためにけんかもするのです。

～平成27年7月 全国市町村教育委員会連合会 時報より～

とみた・ふじや

子ども家庭教育フォーラム代表。

教育・心理カウンセラー。

不登校、無就労の青少年の相談活動を通してコミュニケーション不全としての「引きこもり」をいち早く問題提起する。

その後、幼児・家庭・地域教育

にカウンセリングの生活化をすすめる。千葉明德短期大学客員教授、千葉大学教育学部非常勤講師等を経て、文教学院大学生涯学習センター講師を務めている。著書に『いい子を悩ます強迫性・パーソナリティ「障害」全対応版Q&A』（ハート出版）等多数。



「お父さん、信用できないか」

子どもが
来たる
年寄りの
往路も